

# アクティブ・ラーニング指導用ルーブリック

アクティブ・ラーニングの視点から、**不断の授業改善**を図るため、授業を自己・他者評価する際の基本的な5つの視点を**指導用ルーブリック**として示した。

視点1と視点5は、目指すべき目標と学びの評価であり、これらは**授業の根幹**と捉える。

## 1 児童生徒が目標を理解し、課題に興味をもって取り組んでいたか。

**【目指すべき目標・評価規準の設定等】**

- 指導計画に基づき、適切な目標(資質・能力の三つの柱に基づき「何ができるようになるか」)が設定できたか。
- 本時の目標に正対する評価規準・評価方法が設定できたか。
- 児童生徒の学習意欲を高められる導入場面であったか。(学習問題や課題の工夫、提示方法の工夫など)

## 2 児童生徒が自分の考えを表現することができていたか。

**【主に主体的な学びの視点】**

- 本時の課題を正しく伝え、見通しをもたせることができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、(主につまりしている児童生徒たちへの)支援方法を準備し、支援することができたか。
- 自分の考えを表現することができるように、教具の工夫、適切な時間や場の設定等の準備ができたか。
- 学習活動は、目標の実現につながっていたか。

## 3 児童生徒が友達の発言を受け止め、自分の意見と比べていたか。

**【主に対話的な学びの視点】**

- 児童生徒の考えを広げ深められるような、学習形態(個人、ペア、グループ、全体)は設定できたか。
- 児童生徒の考えを広げ深められるよう、教具(タブレットPC・具体物等)を工夫し用いていたか。
- 目標の実現につながるように児童生徒の考えを可視化(板書、ICT等を使って示すこと)できたか。

## 4 児童生徒が思考・判断・表現する活動を通して「見方・考え方」を働かせていたか。

**【深い学びの視点】**

- 児童生徒が本時に働かせるべき「見方・考え方」は、明確であったか。
- 児童生徒が「見方・考え方」を働かせることができる学習活動を設定することはできたか。
- 児童生徒が働かせていた「見方・考え方」を可視化する(板書・口頭等)ことはできたか。

## 5 児童生徒が「分かったこと」「やったこと」や「できたこと」など、学びの成果や課題を実感していたか。

**【学びの評価・振り返り】**

- 評価規準・評価計画に基づき、本時の児童生徒の学習状況を捉え、個々・グループ等へ支援する(キャッチ&レスポンスする)ことができたか。
- 目標に準拠した指導と評価となるよう、学習の状況を適切に評価することができたか。
- 児童生徒が本時の学習を振り返ることができる場面が設定できたか。

視点1や視点5に示されているように、子供たち**一人一人の資質・能力を確実に育てていく**ためにも、今後もタブレット端末を活用した『主体的・対話的で深い学び』をより一層推進することが大切である。例えば、これまでワークシート等を使用した学習場面についても、より効果的・効率的な視点から見直し、**タブレット端末を活用した指導への転換**を検討する必要がある。



R3学校訪問での  
達成状況

